

# 会 議 顛 末 報 告 書

会 議 名	令和6年度大船渡市立公民館運営審議会		
日 時	令和6年7月2日（火）午後1時50分～午後2時50分		
場 所	市民交流館・カメラアホール 多目的ホール		
出 席 者	○審議会委員（11名） 欠席4名：斉藤恵里委員、佐々木晋委員、畠山邦子委員、宇夫方聰委員 ○事務局（8名） 平野生涯学習課長、中央公民館職員7名（江刺中央公民館長、松村館長補佐、千葉主任、鈴木主任、石川生涯学習推進員、阿部社会教育指導員、浦嶋社会教育指導員）		
会 議 資 料	別添のとおり		
報 告 日	令和6年7月5日（金）	報 告 者	中央公民館長 江 刺 雄 輝
会 議 内 容			
<p>〔目的〕</p> <p>社会教育法第29条第1項及び大船渡市立公民館設置条例第4条の規定に基づき、大船渡市立公民館事業の企画・実施に関し、調査・審議する。</p> <p>〔概要〕</p> <p>令和5年度事業実績及び令和6年度事業計画について説明し、委員から質問・意見提言をいただいた。特に「施設の効率的・効果的管理運営のあり方」、「公民館報のデジタル化のあり方」について重点的に審議がなされた。</p> <p>〔詳細〕</p> <p>○会長あいさつ（薄衣会長）</p> <p>本日は、ご多用のところご出席いただき、誠にありがとうございます。委員の皆様におかれましては、日頃から、市立公民館の運営に関しまして、多大なるお力添えを賜っておりますことに、心から感謝申し上げます。</p> <p>さて、私共、公民館運営審議会の役割は、「公民館事業の企画・実施について、調査・審議し、公民館のよりよい運営に資する」ということであります。公民館活動は、そのときどきの社会情勢や市民の学習ニーズを的確にとらえ、進められることが大切であります。</p> <p>昨今の社会情勢は、人口減少、少子高齢化、感染症の拡大、物価高騰、デジタル化や国際化の進展など、目まぐるしく変化し、市民の学習ニーズも多様化し、また高度化してきております。こうした情勢を踏まえ、公民館では工夫を凝らして、さまざまな事業に取り組んでおります。</p>			

本日は、令和５年度の公民館事業の実施状況の報告や令和６年度の事業計画について審議することといたしております。委員の皆様の忌憚のないご意見を賜りますよう、お願い申し上げ、ご挨拶といたします。

〔主なＱ＆Ａ〕

○令和６年度施行の使用料減免とは？（志田広記委員）

→カメラアホールの使用料について、市芸術文化協会加盟団体の利用を１００％減免してきたものを５０％減免としたもの。

（関連）

○減免率引き下げに関し、芸文協の理解は得られたか？（薄衣会長）

→芸文協に加盟していないグループやサークルとの公平性の確保を説明し、ご理解をいただいた。

○三陸公民館を月曜休館として経費は抑えられたか？（薄衣会長）

→一概にはいえない。

（関連）

○月曜休館で指定管理料が削減されたが、光熱水費は増加したはず。総体の経費は減ったか？

（舟野ひとみ委員）

→光熱水費は利用形態などでも変わる。月曜休館と経常経費の増減の関係性はもう少し長い目で見なければ分からない。なお、三陸公民館の利用時間に関する満足度は令和５年度に下がったが、月曜休館の情報が浸透していなかったことが要因として考えられる。

○学級・講座の参加者がコロナ前の水準に達しないものがあるようだが、どう評価しているか？（薄衣会長）

→学級・講座の参加者が減った要因にはいろいろある。当市の人口は年 600 人から 700 人ずつ減っている。その影響もあるだろう。新型コロナウイルス感染症が第５類に移行したとはいえ、高齢者の中には外出を控える方もまだ一定数いる。事業の満足度は高いので様子を見る。

○館報カメラアホを関心しながら読んでいる。（志田倫代委員）

→令和６年度から、デジタル版に切り替えた。市行政ＤＸの取組の一環である。審議会委員以外の方々にも目に触れる機会が得られる反面、使用に慣れるまで時間がかかると思われる。

（関連）

○館報デジタル版（Ｘ）の最新情報が自分のスマホに入っていない。審議会委員は全員見られているのか？全員が見ていないのであれば、紙の広報に戻すべきだ。（高師一郎委員）

→課長）スマホの操作は慣れなければ難しい。紙媒体でほしい場合は印刷することもできるので、申し出てほしい。また、Ｘの活用により、公民館活動が市民に広がるようご理解をお願いしたい。

→最新情報が見られないのは、高師委員のスマホの設定か使用方法のためだと思われる。後刻個

別に対応する。審議会委員全員にXの閲覧を強制することはしない。Xでの発信についてご理解をお願いしたい。今後の館報の取扱については、ご意見を参考に検討したい。

※審議会終了後、スマホの設定を修正し、問題解決に至る。

(関連)

○公民館報デジタル版はXだが、市の公式LINEを使わないのはなぜか？(志田倫代委員)

→市の情報発信ガイドラインに沿ったもの。公式LINEでは「これから行われるイベント情報」等を発信する。Xでは「事業報告」などの情報を発信する。

(関連)

○Xは友達に勧められてインストールしているが、電話番号などを入力する必要があるなど、インストールに抵抗があるかもしれない。(佐藤公枝委員)

→館報をデジタル化することで、市内のみならず市外にも情報発信できるので、よろしくお願いいたします。

(関連)

○中央公民館がXをしっかり運用できれば、より広く活動を周知できるだろう。よろしくお願いいたします。(佐藤善公委員)

→課長) 中央公民館職員がサポートするので、お気軽にお問い合わせください。

○市民協働のまちづくりに関し、各地区の進捗状況に相違があると思われるが、現状は？(薄衣会長)

→課長) 進捗状況は各地区様々で、先行しているところもあれば、これから協議会を設立するところもある。道半ばといったところ。それぞれの地区の実情に合わせて現在進行中。目標年次は定めているが、無理のないように地区と行政が一緒になってまちづくりを進めているところ。

→協働のまちづくりに向け、公民館の学級講座も地区の学習ニーズを優先して行っている。

〔御礼あいさつ〕(平野生涯学習課長)

長時間にわたり熱心なご審議をありがとうございました。

大船渡市では公民館事業をはじめ、社会教育、生涯学習について市長部局である協働まちづくり部が担当している。市民の自発的な学習や相互交流やそれぞれの生きがいがづくりが、当市の発展、市民の幸福につながっていくものと思う。デジタル技術の進展に伴い、市民生活への影響が出ている。今後もその流れが続く。そういった新しい技術を取り入れつつ、これまでの公民館の歴史も大事にして役割を果たして参りたい。

施設使用料、コロナ、まちづくりがどのように変わっていくのか、Xへの不安と期待など、本日は多くのご意見をいただいた。今後の事業展開に生かして参りたい。よりよい公民館活動となるよう努めて参りますので今後ともご支援いただきたい。本日は誠にありがとうございました。